



南棟(仮称)完成予想図

工 化 時 報

第32号



Since 1938



南棟(仮称)建設工事中の6・9号館跡地



解体前の9号館(左)および6号館(右)

工化会会長あいさつ

工化会会長 古橋 雄二

(昭和52年卒)



工化会会長の古橋です。皆様いかがお過ごしですか。

2016年の年明けは12月からの暖冬の影響もあり、穏やかなお正月になりました、しかしながらその後非常に厳しい寒さの到来で通常の四季の潤いも与えてくれました。

新聞の紙面や、テレビで報道される様々な出来事は、私たちに色々な形で不安を与えるものが多くあります。また市場経済では生まれてこの方聞いたことがないマイナス金利の導入が話題になっています。

さて工化会の活動ですが、例年通り5月30日(土)に御茶ノ水の理工学部8号館で年次総会を開催いたしました。総会の中で白熱した議題は、ミャンマー工科大学の先生を日本大学理工学部物質応用化学科に招聘するための予算の申請提案でした。議題に関しまして主任の櫛先生からこれまでの経過説明、趣旨そして本年度の行動予定の説明があり、その後参加メンバーのご賛同をいただくことができ無事予算化ができました。

このプロジェクトは、物質応用化学科のグローバル化を推進することを目指し、数年前から有志の先生方数名がアジア、特にミャンマーのヤンゴンやパセインへ出向き、現地で開催された理工学国際学会等への参加を通してミャンマーの先生方と話合いを持ったことから始まっています。しかしながら活動は日本からミャンマーへの一方通行でしたので、ミャンマーでご活躍の先生を物質応用化学科へお招きしミャンマーの現状を多くの先生方また工化会のメンバーにご理解いただきたく、またお越しいただいた先生に物質応用化学科とその活動を理解いただくことが主目的です。

今後は、ゴールを共有し、合意書をもって理工学部の海外招聘者研究員制度への申請なども含めて次のステップに進みたいと考えております。新しい事への挑戦は不安がつきものですがしっかり考え実行していきたいと考えます。

さて皆様も学科創設70周年記念会の事は、まだ記憶に新しいものと思います。工化会では来る2018年の学科創設80周年

記念会のために既に準備委員会を組織し活動を開始しております。これまでの会議では、様々な委員会とそのメンバー、記念会日程、会場案などの検討を行いました、また先輩から助言をいただいた80周年記念会キャッチフレーズの検討も行われています。

70周年記念式典では、工化会会員から寄付された基金を管理、運用することを目的に工化記念基金委員会を立ち上げさせていただきました。事業としては、①若手研究者支援事業、②奨学生支援事業、③奨励賞授与事業を行っております。この紙面にてご寄付くださいました会員の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

また奨学生からの喜びのコメントは毎年の工化時報で掲載しております。

学科創設80周年記念会後も学科のためになる事業などを展開したいと準備委員会メンバー一同願っております。

《学科創設80周年記念会の開催予定日は、2018年6月23日(土)です。開催場所、時間などは工化時報並びにご案内状でご連絡いたします。是非ご参加ください》

最後になりますが工化時報は全国9,500名の会員を対象に配布するよう変えて以来、多くの方に学科の活動をご理解いただけるようになりました、またおかげさまで会費の納入も増加の傾向にあります。今後も工化会を宜しくお願い致します。

多目的燃料添加剤の製造・販売

有限会社深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤豊史

産業廃棄物の収集・運搬、中間処理及びリサイクル



〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3-347

志と覚悟・情熱 60年卒 鈴木義弘

TEL 048-955-1632 E-mail : sanei-k@misato-net.com

ホームページ : <http://www.misato-net.com/3ak/>

平成27年度 就職状況



応化進路指導委員会
委員長 小嶋 芳行

進路指導委員会報告

本年度より就職のスケジュールが大きく変更されました。これまでは3年生の12月から会社説明会が開始され、紳士協定として4月1日面接開始となっていました。しかしながら、2016年3月卒業者を対象とした就職スケジュールは3年生の3月から会社説明会開始、8月1日面接開始となりました。このような大きな変更は経団連の指示によるもので、留学をした学生にもきちんと就職機会を与えるというためです。

3月の会社説明会開始というのは個人的な意見ですが、この時期学生は学校に来ないため、学生の動向を把握できないのでもどかしい思いをしました。学生も当然本年度のやり方がわからず手探り状態で4月を迎えたと思います。

4年生の就職状況は売り手市場となっているため、4月の段階で内定をもらったとの話も聞かれるようになりました。しかし、学生にその会社に行くのかと尋ねるともう少し就職活動をしますという返事があり、内定をもらったが実際に行く会社を決めかねているという状態が8月までは続いて、就職内定率は高くなりませんでした。7月の学部生の内定率は43%であり、8月明けの9月ではこれが81%まで上昇しました。ちなみに、昨年度の7月および9月の内定率は49、67%であり、今年度は8月過ぎて自分の進路を決定した学生が多かったようです。進路指導委員会としては5月、6月にミニ合同説明会を開催しました。5および6社の会社をおよびして30名ほどの学生に対して会社説明をしていただき、学生と会社とのマッチングを行いました。とくに6月では各社2名ほどの内定をいただき、実際にその会社に就職を決めた学生もおりました。来年度はミニ合同説明会を多く開催する予定です。10月には学部生の内定率は90%程度となり、現在は98%程度であります。ちなみに、2015年3月卒業した学生の内定率は92%(学部平均は98%)であり、本年のほうが

高く100%に近くなりました。

学科の進路指導委員会としての3年生に対しての就職活動のフォローとしては前期にインターシップへの参加を促し、研究室への配属決定後の10月から業界セミナーとして週2回(1回ごとに2社)を開催して様々な業界の話をしていただきました。また、2015年12月には「夢実現プロジェクト」としまして35社の人事の方などに参加していただき、1号館CSTホールで会社の説明などをしていただきました。これに参加した学生は学部および院生を含め191名にもなりました。午前中は学生を35班に分け30分間就職に関する質問などをしてもらい、これを4回繰り返しました。午後は希望する会社で会社説明などをしてもらいました。

さらに、工化会会長などと話をしてさらに低学年から就職を意識させようと考え、2016年2月上旬には希望する2年生を集めて就職支援会社のマイナビの方に来ていただき春時期のインターンシップについて話をさせていただきました。会員の皆様の会社の中で春、夏のインターンシップを実施されている場合にはご一報いただければ幸いです。



写真下：12月開催
夢実現プロジェクト

写真上：5月開催の
ミニ合同説明会



PVC・他合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

〒348-8585 埼玉県羽生市小松台1-603-29

TEL: 048-561-5221

E-mail: SOUMU@showakvc.co.jp

ホームページ <http://www.showakvc.co.jp/>

昭和53年卒 代表取締役社長 **池本 俊一**

ヤンゴン工科大学との学科間提携に前進

平成 28 年 1 月 25～30 日の 6 日間、ヤンゴン工科大学(YTU)工業化学科主任であられる Mar Lar Than 先生(以下 Mar 先生)を工化会の支援により物質応用化学科に招聘することができました。学科では、教員や学生間の交流を目指して平成 26 年よりミャンマーにある大学との連携を試みてきました。今回の招聘に先立ち、櫛教室主任をはじめ総勢 7 名の教員が平成 26 年末に YTU の主催で開催された ICSE2014(国際会議)に出席し、日本-ミャンマー交流協会のお力添えをいただきながら、YTU の学長を表敬訪問して今後の学科間の提携について話しがなされました。帰国後提携を進めるべく理工学部内で多くのアクションを試みましたが、連携実績のない相手との国際交流に関して学部内では補助金の申請すらできず提携計画が頓挫するところでしたが、平成 27 年 5 月に開催された工化会総会でミャンマー教員招聘計画の支援が承認され今回の招聘が実現しました。

25 日早朝に来日された Mar 先生は、到着後すぐに船橋キャンパスを見学された後、駿河台に移動して研究室や施設の見学をされました。翌日以降滞在中には、レクチャー 2 回(学生向け及び工化会向け)、理工学部長表敬訪問、日本-ミャンマー交流協会事務所表敬訪問および学科内スタッフとの研究ディスカッションなど多忙な日々を過ごされました。学生向けレクチャー中には学生へ向けて YTU への来校を勧めるなど学科間の連携へ向けて協力的であることを伺うことができました。また、帰国前日に行われた工化会向けのレクチャーでは、総勢 106 名の前でミャンマーにおける化学の研究開発に関するお話をいただきました。年間を通して平均最低気温が 15℃を下回らないヤンゴンからの Mar 先生の招聘でしたが、体調を壊されることなく無事に終えることができました。工化会からのご支援より提携に向けて前進できましたこと、心より御礼申し上げます。



Mar Lar Than 教授による
工化会特別講演(上)

講演後の懇親会にて(下)



文責：物質応用化学科 准教授 青山 忠

外務大臣ならびに文化庁長官から表彰状

梅北 司氏（昭和43年3月2部卒業）におかれては、特定非営利活動法人大使館親善交流会の代表として、平成27年8月に外務大臣より表彰されました。また梅北氏は同協会を通じて、国際文化交流に貢献されたことにより、平成25年に文化庁長官からも表彰されています。

梅北氏は本学科を卒業後（1972年）に印刷会社「秀峰」を設立され（本学科創設50周年記念誌「五十年の歩み」は秀峰にて印刷）、その後、かねてより思いを寄せていた国際交流への貢献の一助ともなればと、1986年に特定非営利活動法人大使館親善交流協会の設立を提唱されました。梅北氏はまず、同協会の発起人として在日各国大使館員によるレクチャー「国境と民族/大使館員と語らいの夕べ」（月1回、1986年～2007年）ならびに「各国大使館対抗フットサル大会ワールドカップ誘致」（年1回、1993年～2010年）を主催されました。さらに、各国大使館員からの要請により、1997年に「各国大使館員日本語スピーチコンテスト」実行委員会を設立されて、1998年から年1回のイベントとして主催され、今日まで続けられてきました。この間、コンテストの参加国は72ヶ国に及び、参加者も300名を越えました。このイベントの日本と諸外国の友好親善への寄与が評価されて、今回、外務大臣から表彰された次第です。なお、このイベントは外務省、文部科学省、東京都、NHK等の後援で、これからも継続されるとのことでした。

梅北氏はこのイベントを企画するにあたり、日本大学名誉教授であられた故小島和夫先生にスピーチコンテストの実行委員会委員として参加協力いただきたく相談に伺い、審査員を引き受けていただきました。そのとき、先生から小冊子「木を植えた人」（ジャン・ジオン著、原みち子訳）をプレゼントされました。梅北氏は「この本が座右の書として、ひたすら誠実に取り組んで来たイベントの継続に大きな支えとなった」としみじみと述懐されていました。



文責：日本大学名誉教授 越智健二

クラス会・同窓会の報告

昭和42年卒工業化学科同期会報告

42工化同期会を平成27年2月28日(土)に理工学部1号館カフェテリアにて開催しました。通常3年目毎の秋に開催していましたが、たまには桜の季節でという前回の約束もあり3月を企画したのですが、学年末ということで日程が合わず、春浅い(浅すぎる)梅の季節の再会となりました。

はじめて参加される方や、本当に久しぶりの方など19名が集まりました。お茶の水まで気軽に来られる方が中心でしたが、都合で来られなかった方々の近況も数多く寄せられましたので、これをプリントして参加者に配布いたしました。現役で元気に活躍している話や、後進指導、地域貢献、孫自慢など披露しあいながらあっという間の2時間。70の坂を越え、ほんのちょっぴり社会不安(医療費負担金増加や介護保険への不満等)の話もありましたが、全体として穏やかに過ごしている様子で安心感(というのか人生の達成感みたいな雰囲気)が漂っておりました。意識的にか、前回に比べ健康不安に関する話が少なかったという印象があります。

次回は卒業から50年を迎える2年後、平成29年の再会を約して散会しました。



平成27年3月 今田雅躬

「有機合成化学研究室」関連の同窓会が統合されました!

創設より67年の歴史を積み上げてきた有機合成化学研究室は、複数の教員が研究・教育に携わり、それぞれの教員に薫陶を受けた卒業生による複数の同窓会、「日本大学有機同窓会」(庄野信司教授を指導教員とする同窓生)、「PS会」(板橋国夫教授、妹尾学教授、中沢利勝教授、滝戸俊夫教授を始め複数の教員を指導教員とする同窓生)、「みどり会」(山田翠教授を指導教員とする同窓生)が構成され、それぞれが独自で、時には合同しつつ総会が開催されてきた。

この度、平成27年11月開催の合同総会において、3会統合が決議され、新同窓会名称として「有機合成化学同窓会」が発足し、平成27年4月に着任された大内秋比古教授の参会を受けて、青山忠准教授、早川麻美子助手とともに新たな飛躍を培うこととなった。尚、新同窓会は太田延幸会長、小椋幸夫副会長、久保田博明会計監査並びに炭田幸宏さん、滝戸俊夫さん、上條治夫さんを顧問として発足した。詳細はリニューアルするホームページに掲載予定である。



有機合成化学研究室の統合同窓会記念撮影(2015. 11. 21)

四駆会活動

昭和49年学部卒のメンバーは四駆会という名称で、5年ほど前から同期会を開催しています。四駆会の名称の由来ですが、一説に、工業化学科卒業生はパワフルに生きようとモットーを同期会の名称にしたようです。メンバーの年齢は63歳を越え、勤務先をリタイアした人も多くなっています。その中で元木(無機研)と、山崎(燃料研)は、非常勤講師として、大学の専門化学実験のお手伝いをしています。2年生と3年生の専門化学実験では、生化学系の実験も増え、内容も高度になっていますが、学生は熱心に実験に取り組んでいて、将来が楽しみです。尚、同期へのご案内往復ハガキの作成と郵送(実費)は、工化会名簿担当(伊掛先生)のサービスです。感謝申し上げます。(元木英二)



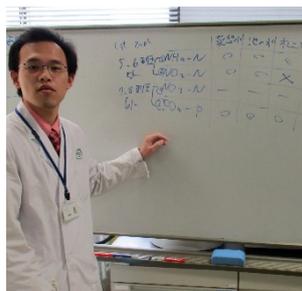
2016 年高分子合成同友会開催のお知らせ

高分子合成研究室は 1972 年に設立されてから 2015 年 3 月までに 1,000 名を越える卒業生を輩出しており、本年 46 期目の卒業研究生を迎えた。第 14 回目の総会は 2015 年 11 月 7 日(土)駿河台校舎 1 号館にて澤口孝志先生(日本大学理工学部理工研究所顧問)からの定年のご挨拶もあり、100 名以上の参加により大盛況であった。大学院生の研究発表会や参加者の交流を目的としたイベントも同時に開催した。本会は豊富な人材ネットワークを気軽に活用できるサロン風産学連携拠点として研究室の枠を超えたネットワークへの発展を強く願っている。第 15 回同友会総会は 2016 年 11 月 5 日(土)を計画している。



工化会賞受賞者の声

平成 27 年度 70 周年記念賞若手研究者支援受賞者



平野 廣佑
(2015 年博士後期修了)
無機機能材料研究室卒

こんな始まり方も何ですが……
修士まで海洋建築工学科で過ごし、
博士は物質応用化学科に転科、後
輩たちには『化学が分からない先輩』として煙たがられ、
親へは大迷惑をかけつつも 3 年間に研究に捧げました。

その結果……現在は和歌山工業高等専門学校にて助教として教鞭を振っています。何と言いますか……これは夢なのではないか？いつか「廣佑、起きなさい」と天から聞こえてくるのではないか？……と日々戦々恐々としています。ですが、研究を続けられる環境を得られましたので、全く未経験の土木工学、測量学について講義をしつつ、海洋建築工学時代から興味があった環境問題(海底堆積汚泥からのセシウム除染や人工堆積汚泥の作製など)について、

卒研究生を交えて研究を続けています。なお、学会参加や発表については可能な限り行っていますので、もし会場で私を見かけましたら「よう、マッド・サイエンティスト！夢から覚めたか？」と声をかけて頂ければ幸いです。

平成27年度 70周年記念賞奨学生支援受賞者

無機機能材料研究室所属 安澤 由記
(平成27年 物質応用化学科卒)

現在、私は遷移金属を修飾した窒化ホウ素 (BN) の水素吸着に関する研究を行っております。大学院に進学し、日々研究に打ち込むことができるのも、ひとえに工化会の皆様からの御支援の賜物であり、心より感謝しております。今後も研究、勉学に励み、社会に貢献できるよう努力し、様々なことに挑戦していきたいと考えております。また、工化会の皆様が今後も大学院に進学する後輩たちへの御支援を続けてくださることを心より願っております。

平成27年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生・OB の学会賞の受賞等の活躍をご紹介します。(集計期間：平成27年2月～平成28年1月)

【教員・学生の部】

- ・多胡敦史 (資源) 廃棄物資源循環学会関東支部研究発表会 優秀ポスター賞
- ・加藤真洋 (超分子) 第66回コロイドおよび界面化学討論会 ポスター賞
- ・鈴木真平 (有合) 理工学部学術講演会、優秀発表賞
- ・里中有希 (化工) 理工学部学術講演会、優秀発表賞
- ・金田 青 (高分子) 理工学部学術講演会、優秀発表賞

本学教授 平野勝巳 先生におかれましては、平成27年3月15日にご逝去されました(享年58歳)。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

本学名誉教授 池村 糺 先生におかれましては、平成27年3月25日にご逝去されました(享年90歳)。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

本学元教授 青木繁樹 先生におかれましては、平成27年10月9日にご逝去されました(享年85歳)。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

学生編集委員のページ

“何のために大学に行くのか”

最近、大学進学率の増加とプログラムの多様化により、多くの人がこの問いについて考えるようになりました。物質応用化学科の場合もしかり、「化学を勉強するため」「研究者になるステップとして」「とりあえず大学卒業資格を得るため」など大学進学の方法は人それぞれ。ただ、どのような目的で入学したにせよ、有意義で満足できる4年間を送れるのがベストです。今回は、2016年3月卒業の物質応用化学科4年生を対象に「物質応用化学科満足度アンケート」を行い、155人から回答を得ました。その結果をもとに、いまの物質応用化学科の現状、また、学生サイドから出来る大学生生活の満足度アップ法を書いていきます。

はじめに、どのような属性の人がよりこの学科での満足度が高いのかを調べました。この学科での4年間に対する満足度と共に、「出身地域」「成績」「理解できた科目」「卒業後の進路」「身についたスキル」などについて質問しました。そのうち「成績」と「卒業後の進路」において、「満足度」との意外な関係性が確認できたので、紹介します。

まず、「成績(GPA)」と「満足度」の関係について、表1に示します。大学4年間での満足度について、「とても満足」「まあ満足」「あまり満足でない」「満足でない」の4択でアンケートをとり、その結果を100点満点に換算しました。表から分かる通り、GPAが高くなればなるほど満足度が低くなっていることが分かります。これはどういうことでしょうか。本来であれば、4年間でよりしっかり勉強して良い成績を得た人の方が満足度が高そうなものですが、結果はその逆となりました。また、自由記述で授業について改善点を聞いたところ、成績の高いグループでは「もっと内容を濃くしてほしい」「単位が取りやすいことしかメリットのない授業が多い」などの声がありました。これだけで確かなことは言えませんが、より学ぶ意欲の強い学生が満足できる授業を十分に提供できているとは言えないのではないのでしょうか。

次に、「卒業後の進路」と「満足度」との関係を見ていきたいと思えます。表から分かる通り、化学系企業に就職する人の満足度がダントツで高く、次に化学系以外の就職、最後に進学となりました。これは少し意外ではないのでしょうか。学部で4年間化学を学び、満足感を得た人が大学院に進学するのではなく、進学するほど化学への思いがある人が、4年間で高い満足度が得られていないことが分かります。これ

表1 GPAと満足度の関係

GPA	～2.5	2.5～3.0	3.0～3.5	3.5～
満足度	69.3	66	66	64

表2 卒業後の進路と満足度の関係

進路	就職(化学系)	就職(化学系以外)	進学(化学系)
満足度	74.3	60.7	60.3

も、この結果のみから言えることではありませんが、より学習意欲の高い学生に対して、最適な教育を施せていないのではないかと、そういった印象を受けました。

ところで、ここまでは成績の良い学生や化学系大学院に進学する、「化学への意識が高い学生」にスポットをあてて書きましたが、逆になぜ、そうではない学生の満足度がより高くなっているのでしょうか。その答えが、冒頭の問いにあると私は思います。大学進学のための目的は多様化しています。大学4年間で、専門科目の勉強以外にも多くの経験を積むことが、大きな満足度を与え、大学生生活を有意義なものにしているのではないのでしょうか。この記事の読者には、新しく入学された新入生の皆さんもいると思います。大学生生活を終えた4年生が「やっておいてよかった」「やっておくべきだった」と答えた、広い意味での「大学での勉強」について紹介します。10項目中最も回答数が多かったのがアルバイト、2番が「学業」、3番が「サークル」と続きます。大学を、社会に出るための準備期間と捉えるなら、勉強だけではなくアルバイトやサークル活動を通じて適応力やコミュニケーション能力を身につけることも重要かもしれません。また4番目は「語学」となりました。4年次に行う卒業研究では、研究室にはよりますが数多くの英語論文を読みます。また、就職活動の際にも語学力をアピールすることができます。卒業研究や就職活動が始まる前に、力を付けておきたいものです。

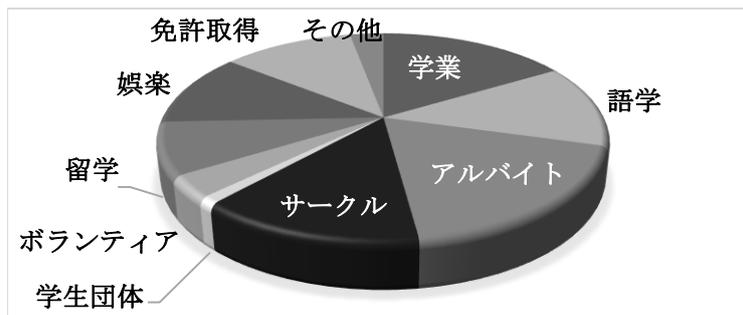


図1 大学4年間で取り組んでよかったこと・取り組むべきだったこと

いかがでしたでしょうか。大学4年間は、長いようでいて振り返ればあっという間です。社会に出る(あるいは進学する)前の貴重な4年間でどうすごすか。大学側が、より質の高い専門教育を施すことはもちろん、学生側も自分は何のために大学進学したのか、4年間で何をして何をしたいのか、常に考え続け行動し続けることで、より意義深い大学生生活になるとと思います。

(4年学生編集委員)

新任紹介

高分子合成研究室
教授 青柳 隆夫



平成27年4月に物質応用化学科に着任に教育・研究活動を開始した青柳隆夫と申します。早稲田大学大学院を修了後、民間企業、財団法人相模中央化学研究所、東京女子医科大学、鹿児島大学、国立研究開発法人物質・材料研究機構および筑波大学に所属し、高分子材料をベースとしたバイオマテリアル研究を一貫して進めて参りました。医学や薬学と工学の融合は次世代の医療の伸展には必須であり、垣根ない行き来と斬新な発想力が求められています。特にバイオマテリアル研究は疾病の診断・治療の開発に欠かせないものであり、最近の再生医療の発展を支える必須の基盤技術をとじて発展して来ています。一方、環境やエネルギーなどに関わるグローバルな諸問題も解決されるべき課題です。本学科に着任したのを機会に、これまで培った発想や技術を有効に生かしながら、これらの問題にも高分子材料研究を通じてチャレンジしていく所存です。宜しく願い申し上げます。

新任紹介

有機合成化学研究室
教授 大内 秋比古



平成27年4月より物質応用化学科に着任しました大内と申します。大学で天然物の全合成について学んだ後、産業技術総合研究所(旧化学技術研究所、物質工学工業技術研究所)でレーザー化学、光反応性LB膜、各種材料のレーザー合成、木綿・パルプの環境調和型光漂白、繊維のリサイクルと表面機能化、環境調和型有機光化学反応の開発とその産業への利用などについての研究を行ってまいりました。業界からの要望もあり、様々なテーマについて基礎から実用まで幅広く仕事を進めることになりました。本学では有機合成化学研究室という長い伝統のある研究室で教育および研究に携わる機会を与えて頂きましたことは光栄であると共に大きな責任を感じております。今までの経験を生かし、社会で必要とされる人材育成を目指した教育・研究を行ってまいりたいと思っておりますのでよろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

新任紹介

有機合成化学研究室
助手 早川麻美子



平成27年4月より助手に着任いたしました早川麻美子と申します。平成25年3月に本学科を卒業後、1年間中学・高校で理科の講師として教育現場に携わり、この度大学での研究・教育に携わる機会をいただきました。現在は学部2・3年生の専門化学実験を担当しています。様々な学生と接することで、コミュニケーションの大切さや多角的な視点を持つことの重要性を日々強く感じています。研究は学生時代に所属していた有機合成化学研究室で、薬理活性を示す新規有機化合物の合成や反応経路の開発を行い、現在は学生と共に光(太陽光)を用いた環境への負荷の少ない有機合成プロセスの研究に取り組んでおります。専門化学実験や研究室での活動を通じて、日本大学で学んだ人材として誇りをもって卒業できるような学生の育成をしていきたいと考えております。微力ながら努力精進する所存でございますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。

新任紹介

高分子工学研究室
助手 原 秀太



プロフィール

平成21年度に本学科を卒業後、本学修士課程に進学する。在学中は理化学研究所で生体高分子を人工進化させる手法の開発に従事した。その後、東京医科歯科大学博士後期課程に進学し、薬の作用メカニズムを解明する新手法の開発で博士(理学)を取得した。その後、理化学研究所から韓国生命工学研究院に客員研究員として派遣され、がん細胞の自食のメカニズムを解明する手法の開発を行い、現在に至る。

挨拶

平成27年4月より助手に着任致しました原秀太と申します。現在、学部2・3年生の専門化学実験で実験指導を行っております。研究活動においては、高分子工学研究室に所属し、高機能性高分子材料に関する研究を行っております。母校で教育活動及び研究活動に従事させて頂いていることに日々感謝しております。今後は、自信と夢を持って社会で活躍していける人材育成に尽力する所存です。工化会の皆様、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

平成 27 年度工化会事業報告

平成 27 年度工化会通常総会は、駿河台校舎 8 号館 4 階 843 教室にて平成 27 年 5 月 30 日(土)午後 15 時 15 分より、工化会講演会に引き続き、役員・会員 350 名(内委任状 244 名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務、会計、会員、会報の各委員会の平成 26 年度事業報告および会計報告、ならびに平成 27 年度事業計画および会計予算案、滝戸俊夫名誉教授の理工学部校友会顧問の推挙と個人表彰の推薦、役員の改選案、工化会の会則案の審議を行い、これらを承認しました。また古橋会長より、平成 26 年 11 月 5 日(水)に創設 80 周年事業準備委員会が、平成 26 年 12 月 13 日(土)に「マネージャーサロン」が開催されたことが報告されました。通常総会終了後には、本年度もホームカミングとして還暦を迎えられる卒業生の皆様もお招きして、5 号館 1 階の学生食堂にて懇親会を開催し、会は盛況の内にお開きとなりました。

なお物質応用化学科の主任の交代に伴い、新主任に就任された榎泰典教授を名誉会長に選出し、本年度、新たに着任された青柳隆夫教授、大内秋比古教授ならびに助手 1 名と事務職員 2 名に役員をお願いすることが承認されました。また、前学部長を務められた滝戸俊夫名誉教授には慣例として、工化会顧問を引き受けていただき、前学科主任の澤口孝志先生には副会長として今後とも工化会に貢献していただくことも決まりました。

さて本年度の事業計画としては、役員会・通常総会の開催、駿河台オープンカレッジ 2015、駿河台入試フォーラム 2015、第 16 回日本大学理工学部一日体験化学教室、CST オープンキャンパス 2015、第 8 回短大ものづくり&サイエンススクール、第 2 回物質応用化学科夢実現プロジェクト、第 9 回合格者相談会、平成 27 年度物質応用化学専攻・同学科ならびに短大生命・物質化学科合同の学位記伝達式、物質応用化学科主催の東南アジア国際交流会の 9 つの事業に対する後援、工化会独自の講演会の開催、工化会賞の授与、工化時報の発行・発送が承認されました。

この工化会賞は卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した学生を工化会として表彰するものであり、本年度も厳正な選考を行い、受賞者 41 名には、3 月 25 日(火)に開催した大学院・学部・短大合同の学位記伝達式の際に賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。なお本学科の創設 70 記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象で当該年度の学位修得者)、奨学生支援(学部の成績優秀

者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業生の中で高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた学生が対象)については、若手研究者支は該当者がおりませんでした。奨励賞については1名、奨励賞については16名に対して支援・授与が行われました。

最後に平成27年度の工化会予算については、予算を經常会計予算と特別会計予算の2種類作成しており、平成27年度經常会計予算は総額459.9万円で、学生支援事業費14.0万円、各種講演会・行事補助費87.0万円、卒業生支援事業費90.3万円、その他83.0万円、次年度繰越金185.6万円であり、特別会計予算は総額1319.9万円で、卒業生支援事業費21.0万円、会費・寄付金郵便振替対応業務3.9万円、次年度繰越金1295.0万円を計上しています。なお平成27年度の会員諸氏による会費の納入状況は、本号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

なお、平成27年度の工化会主催行事ならびに後援事業の概要は以下の通りです。

① 4月25日(土) 役員会：役員60名出席(委任状27名)。

② 5月30日(土) 工化会講演会・通常総会：

講師：市原英樹様(大成建設株式会社、昭和61年3月卒業)、演題：世界を席卷、日本発ビル解体工法TECOREP(Taisei ECOrological REProduction)

通常総会：350名出席(委任状244名)。

③ 5月31日(日) 駿河台オープンカレッジ2015：付属高校生148名が来場。

④ 7月12日(日) 駿河台入試フォーラム2015：高校生189名が来場。

⑤ 7月26日(日) 第16回日本大学理工学部一日体験化学教室：高校生他74名が参加。

⑥ 8月1日(土)、2日(日) CSTオープンキャンパス2015：高校生985名が来場。

⑦ 11月3日(火) 第8回短大ものづくり&サイエンススクール：地域の方、のべ182名が参加。

⑧ 12月19日(土) 第2回夢実現プロジェクト：

企業35社が参加。詳細は進路指導委員会の就職状況報告を御覧ください。

⑨ 1月29日(金) 工化会特別講演会：

講師：Professor Mar Lar Than (Yangon Technological University)、演題：Research and Development of Chemistry in Myanmar、太田延幸(工化会副会長)、演題：ミャンマーの電力設備とICSE
教職員・学生・招待者を含め106名が参加。

⑩ 2月20日(土)、28日(日) 第9回合格者相談会：

20日(土)：8組14名、28日(日)：23組46名、両日で31組60名が参加。

⑪ 3月25日(金) 平成27年度物質応用化学専攻・同学科ならびに生命・物質化学科学学位記伝達式

以上 庶務委員会

会費,寄付金納入者名簿 (平成28年1月31日現在)

昭和16年卒	寺島 昌訓	久保田 景一	小笠原 正治	新井 政義
和田守 哲治	中嶋 貞夫	熊谷 祐一	越智 健二	長嶋 潜
天野 章	八田 肇	小林 脩一	飯戸 斌	白石 益郎
櫻村 正久	横田 一郎	才木 義夫	川上 進	杉田 松生
津崎 統一	米山 廣保	齋藤 二郎	木村 繁夫	藤野 裕
昭和18年卒	渡辺 文夫	清水 巖	北林 伸一	鈴木 忠
浅谷 公洋	荻野 堯	高木 三郎	黒尾 良康	昭和39年卒
昭和19年卒	高橋 久雄	滝淵 幸二	佐藤 進	秋本 幹夫
脇 幹夫	米田 虎雄	中山 直之	坂本 昌伍	石井 国昭
日暮 忠弘	昭和30年卒	永井 滋	鈴木 善治郎	石川 和正
昭和20年卒	綾野 怜	西野 武	炭田 幸宏	片岡 康浩
重藤 捨雄	大塚 進	箕浦 滋	高柳 裕臣	神谷 中
澁谷 洋平	金井 孝道	宮森 隆志	松本 規雄	亀村 轟
杉浦 銀蔵	高野 俊彦	吉田 靖	村越 英彦	児玉 義宏
昭和21年卒	古川 新	広瀬 俊雄	村田 敏弘	佐藤 良博
石川 幸一	笠間 三男	昭和34年卒	横山 樹静	斎藤 伸之
岸 照二	臼井 徹郎	岩瀬 善則	渡辺 鏐治	斎藤 博之
斎藤 光平	近藤 練太郎	牛込 力夫	佐藤 貞男	斎藤 守園
長崎 行太郎	昭和31年卒	大久保 勝弘	砂川 憲二	鈴木 庸一
馬場 和朗	長縄 なを子	小林 照弘	野村 友次	瀬尾 宏
昭和22年卒	神戸 徳蔵	児玉 五男	中村 紀史	竹石 肇
大川 襄治	川口 國雄	佐藤 忠	桔梗 隆	武田 幸久
昭和23年卒	小松原 彬	玉置 憲三	小串 照宗	奈良木 亨丞
日吉 和男	杉浦 允	早川 武夫	昭和37年卒	中沢 甫
伊東 達郎	鈴木 一郎	藤森 信正	伊地知 龍清	中田 博
伊藤 譲	田中 宏之	松浦 豊紀	伊藤 成利	中野 洪
昭和25年卒	高橋 一正	宮 道夫	井上 靖治	野口 文雄
小林 猛夫	役重 典之	山谷 保二	奥山 正之	原 襄輔
池田 富三	長縄 賢	横倉 隆康	梶山 秀矩	堀 是治
木根 弘水	村上 隆之	小田切 孝光	小谷 嘉孝	松村 政之輔
柳田 雄三	安田 信人	栗原 孝夫	小林 昭朗	田幡 安郎
古館 和夫	伊藤 ミサヲ	昆野 澄夫	駒井 俊雄	矢野 彰一郎
吉岡 典照	米倉 久雄	昭和35年卒	齋藤 一郎	山崎 彰
吉田 耕一	大内 浩	安達 昭郎	清水 大三	横田 力男
昭和26年卒	川合 武夫	青木 弘	庄司 翠	和田 高伸
鈴木 信夫	柿澤 正彦	石川 好隆	杉崎 秀夫	青木 匡
稲垣 正	市町 衆司	内田 穆堂	丹野 彰	香山 武夫
太田 精一	雁部 敬夫	笠井 啓也	塚田 政弘	北村 隆
加納 照彦	田畑 調友	門倉 利夫	長谷川 修一	小屋原 英雄
垣内 宏	吉田 幸三	黒木 妙子	宮沢 武次	鈴木 良治
川西 正人	昭和32年卒	金澤 成光	旭 重男	田中 誠悦
昭和27年卒	阿久津 芳彦	河合 哲次	石岡 龍右	高松 武生
植松 貢	網代 良太郎	小林 隆夫	磯崎 昭徳	寺山 洋子
柏木 治彦	石井 孝二	定方 聰博	長田 守一	中野 弘
外山 研次	園田 勲	塩澤 進	長友 良久	富士 光男
日置 隆	田中 昭男	白石 惠一	原 周二	昭和40年卒
国分 兼一	竹内 孟	須永 晋	植木 庄左衛門	高田 菊平
和井内 徹	竹原 晃	鈴木 修	佐々木 賢明	有田 喜一
井出 俊一	東海林 正	瀧澤 文男	昭和38年卒	石谷 信一
石田 宏	永田 治義	難波 純一	吉井 彰子	稲葉 清彦
高田 芳行	西田 金營	野島 秀次郎	井野 二陸	岩崎 鑑一
昭和28年卒	藤岡 幸彦	橋本 卓也	佐野 直道	上田 輝世
石垣 恭弘	細谷 文夫	原 幹夫	稲垣 甫	上野 公雄
石原 健二	矢作 栄甫	増田 澄	大野 維夫	牛山 惠次
鈴木 一成	依田 恵市	町田 収	大橋 隆	沖本 武且
田村 佐重	池高 敬宜	谷田部 寛昭	大村 俊晴	上條 陽一郎
村上 全司	斎木 稔	米田 修一	木村 次雄	河村 勝弘
石田 壽文	笹原 孝	渡邊 高章	久喜 徹	佐藤 瑞雄
栗田 吉男	渋谷 六郎	尾崎 武二	小松 允	清水 博太郎
徳永 静	村松 勉	倉形 邦英	栗田 公夫	飯野 宏治
福島 敏郎	清治 英子	関口 勝	坂本 一	高橋 志郎
堀 武	福島 弘之	丸山 長資	鈴木 和夫	武井 秀彦
山口 猛	昭和33年卒	宮本 實	竹内 栄多	高間 伸一
吉川 和夫	阿部 正明	村川 信子	塚田 豊	丹野 隆善
昭和29年卒	青山 達也	昭和36年卒	中原 章夫	西脇 鉄雄
浅川 和昭	伊藤 明	小笠原 和子	永田 正巳	幡野 匡彦
井上 秀雄	大井 壽	石井 四郎	西浪 毅	三谷 治郎
小林 清人	奥野 士郎	石井 照明	西山 孝彦	飯原 打越
周 永實	加賀 勸之助	石川 隆夫	原田 文雄	山岡 景仁
瀬谷 俊雄	柏崎 敏郎	宇賀治 正名	渡部 長幸	昭和41年卒
谷川 清	栢森 保壽	漆原 孝太郎	荒谷 作松	楠 勝行

高桑 豊	森田 尚	佐野 勝栄	伊藤 和宏	砂沢 周一
塚田 悦造	昭和46年卒	昭和52年卒	梅田 栄一	平成6年
藤池 誠治	菊田 茂	伊藤 隆夫	桑折 敬子	岡田 賢識
村井 直樹	小谷 将彦	栗村 嘉明	昭和58年卒	谷合 哲行
伊藤 英武	齋藤 政久	最勝寺 公英	岩崎 好高	平成7年
永村 勲	島津 学	酒井 久男	飯田 隆久	仁平 勉
沢田 金吾	杉田 康一	新国 禎倅	伊藤 好一	平成8年
嶋田 晋廣	鈴木 重衛	深澤 豊史	栗原 清文	浮谷 基彦
白龍 美津夫	鈴木 博一	古橋 雄二	田村 精一	林 秀憲
彦田 一夫	高橋 秀樹	山田 勝彦	高山 利治	平成9年
堀内 進	高村 誠一	関口 晴久	長 茂輝	伊掛 浩輝
玉應 亨三	丹野 幸久	生方 正之	谷田貝 仁恵	平成10年
昭和42年卒	冬室 誠	昭和53年卒	中山 佳則	浅野 賢一
赤坂 洋輔	三宅 久利	五十嵐 博	矢島 浩之	樋口 孝夫
今田 雅躬	八木 信雄	太田 一雄	久保田 博明	平野 壮哉
岡見 宏道	三瓶 辰一	桶谷 孝明	立岩 洋	平成11年
鈴木 健之	飯田 隆	勝亦 章行	寺嶋 一彦	亀田 博之
栃木 勝己	昭和47年卒	高木 英行	菅原 節子	戸田 篤志
中井 忠男	駒屋 伸雄	鎌 信弘	昭和59年卒	平成12年
永田 一雄	齋藤 菊夫	中村 恵一	小峰 昌弘	橋内 誠
豊田 文江	丹呉 秀博	原田 哲也	清水 繁	藤田 尚之
古阪 一昭	何木 正芳	深津 誠	古澤 功	平成13年
溝口 隆一	平松 秀夫	三浦 剛	昭和60年卒	角田 雄亮
長田 義男	森 伸一	山田 孝之	太島 佐知子	竹本 礼一
佐藤 馨	飯倉 登美雄	横田 純一郎	石見 勝洋	永島 明憲
田中 秀也	深澤 康俊	吉田 光夫	飯田 ひとみ	鳴瀬 紘一
高橋 秀雄	昭和48年卒	吉野 充男	飯田 岳之	藤野 哲士
成田 勝紀	加来 文隆	渡辺 寿悦	昭和61年卒	吉川 賢治
能代田 順久	後藤 省二	渡辺 千秋	稲葉 隆史	竹島 徹
山崎 博	櫻川 昭雄	昭和54年卒	市原 英樹	平成14年
昭和43年卒	指田 高好	榎本 充男	片桐 正志	星 徹
宇智田 俊一郎	重藤 峻一	小笠原 幸道	小林 千晃	平成15年
海上 幸三	洪谷 修	太田 延幸	小嶋 芳行	今井 新
北村 正孝	中村 宗光	久保 俊一	津田 聡司	熊谷 彬
佐藤 彰徳	長谷川 一夫	杉山 文敏	那賀 恵美子	平成16年
佐藤 精二	平林 明夫	中村 眞理子	萩原 俊紀	赤澤 寛行
進藤 宣昭	山中 操	長谷川 正直	福元 俊之	平成18年
昭和44年卒	吉井 康雅	服部 洋一	大井 勇治	伊藤 拓哉
安藤 純一	大高 由雅	村井 信次	昭和62年卒	亀井 真之介
石井 和夫	川津 義人	目良 昌三	加藤 慎次郎	平成19年
石山 利男	小宮 清子	横森 英俊	塚原 文子	小出 優一郎
井上 隆	坂口 信昭	相場 一雄	幾留 孝司	平成20年
今脇 秀雄	関口 優紀	昭和55年卒	清水 恵樹	原 秀太
羽持 晃	矢田 智	小笠原 守人	昭和63年卒	吉田 隼人
桜井 浩平	昭和49年卒	金子 堅司	石井 睦子	平成22年
信濃 孝之	相澤 貞	黒瀬 健介	歳森 幹生	春日 龍史
新藤 豊彦	青木 壮慈朗	多田 康男	中道 幹芳	平成23年
田中 通夫	牛山 仁司	波岡 宣彦	三井 一隆	石井 一隆
望月 正二	久保 隆	丸山 博秀	村山 竜一	田嶋 研吾
花井 秀之	小島 元昭	森 弘通	中西 剛	渡貫 泰寛
堀 晃弘	小林 文雄	木村 昌宏	平成元年	平成24年
八幡 順一	小林 正男	昭和56年卒	相原 孝志	田村 高大
横山 二郎	小茂田 英男	池田 実	磯崎 誠也	早川 麻美子
小栗 勝治	佐藤 憲一	古屋 実	木方 眞理子	松山 史典
小田原 豊	澤口 孝志	相場 雄子	黒田 美和子	曾村 岳郁
小林 勉	末木 康行	木屋 幸蔵	田辺 進吉	平成25年
原 幸夫	田島 平良	今野 直哉	丸山 浩二	岩淵 拓
昭和45年卒	湯川 吉美	後藤 真一	石川 恵子	熊倉 源輝
小林 満	武安 栄樹	横山 聖一	平成2年	本城谷 拓
篠崎 勝彦	館 徹	金子 勝彦	永田 晶義	光山 絵美
田中 碩	野澤 美文	木村 文紀	村原 伸	元越 峻
滝戸 俊夫	元木 英二	熊谷 一弘	高田 昌子	吉澤 鉄太郎
土田 久	谷島 和夫	大沼 明	平成3年	中村 汐梨
常木 英夫	山崎 純一	三橋 昭男	宮崎 裕子	野中 裕名
永島 一男	昭和50年卒	有川 俊一	加来 洋子	教職員
永田 勝彦	上田 賢二	昭和57年卒	林 由浩	青山 忠
成川 憲男	野原 正男	黒坂 和弥	藤池 一誠	榎 泰典
服部 正隆	中野 功	田島 みゆき	松田 和夫	梅垣 哲士
平塚 良一	関口 眞理	井上 みどり	平成4年	須川 晃貴
宮内 和司	牛込 淳彦	小暮 勝彦	岩淵 弘晃	鈴木 佑典
宮川 晃一	長井 一良	小椋 幸夫	小泉 公志郎	仁科 淳良
望月 昭宏	大川 由明	佐藤 慎一	米田 哲也	青柳 陸夫
森川 美次	昭和51年卒	末澤 二郎	金子 純之	大内 秋比古
森崎 正美	荒沢 康夫	中村 宏昭	平成5年	香織
加村 尚喜	井之上 佳三	中村 明裕	石黒 香織	
瀬戸 博	内野 好夫	久松 美樹	遠山 岳史	以上. 666名
寺田 高德	重盛 正男	宮入 尚史	清水 孝	

編 集 後 記

今年は物質応用化学科に、新しく4人の先生が着任されました。一度にこんな多くの先生が来られたのはいつ以来だろうと思って調べましたら、5人が着任した1999年以来でした。実は私もこの5人の中の一人だったのですが、考えてみれば早いもので、私が日大に奉職してからもう17年が経ったこととなります。この17年間、毎年新入生や新任の先生をお迎えしてきましたが、今年ももうあと1ヶ月で次の新入生が入学してくる季節となりました。4月からは新しい学生と新しい先生方でまた新しい物質応用化学科が始まります。卒業生の皆様には引き続きご支援をよろしくお願い致します。

(工化時報編集委員長 萩原俊紀)

お 知 ら せ

平成28年度の行事予定

5/28(土) 工化会総会 15:00～(8号館を予定)

※総会后、工化会ホームカミングデーを開催

7月31(日) 一日体験化学教室

8/6(土)、8/7(日) CST オープンキャンパス2016

連 絡 先

- ・住所変更に関する問合せ→会員(深津 TEL:03-3259-0805)
- ・会費に関する問合せ→会計(清水 TEL:03-3259-0803)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(萩原 TEL:047-469-5360, FAX:03-3293-7572, E-mail: jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp)
- ・上記以外の関する問合せ→庶務(栗原 TEL:03-3259-0822)

広 告 募 集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲 載 料 1 件 : 10,000円

発 行 所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

小川 誠, 永島一男, 橋本徳子, 須川晃資, 谷川 実,
遠山岳史, 西村克史, 萩原俊紀

学生編集委員

4年 田中紫織, 藤田久美子

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>